

音楽

A. 表現、音楽遊び（1段階）

1段階のねらい、
2段階の歌唱、器楽、
音楽づくり、身体表
現、及び鑑賞の基礎
となるような知識
や技能、「思考力、判
断力、表現等」に関
する筋質・能力を育
てていくこと。

ア 音や音楽を感じて体を動かす、楽
器の音を出す、声を出す。

イ

イ 表現する音や音楽に気づく音や音
楽に気づく。

ウ

ウ ◎ 体を動かす。

エ

ウ ◎ 楽器の音を出す。

オ

ウ ◎ 音楽を感じて声を出す。

A. 表現、音楽遊び（1段階）

1段階のねらい、
2段階の歌唱、器楽、
音楽づくり、身体表
現、及び鑑賞の基礎
となるような知識
や技能、「思考力、判
断力、表現等」に関
する筋質・能力を育
てていくこと。

ア 音や音楽を感じて体を動かす、楽
器の音を出す、声を出す。

イ

イ 表現する音や音楽に気づく音や音
楽に気づく。

ウ

ウ ◎ 体を動かす。

エ

ウ ◎ 楽器の音を出す。

オ

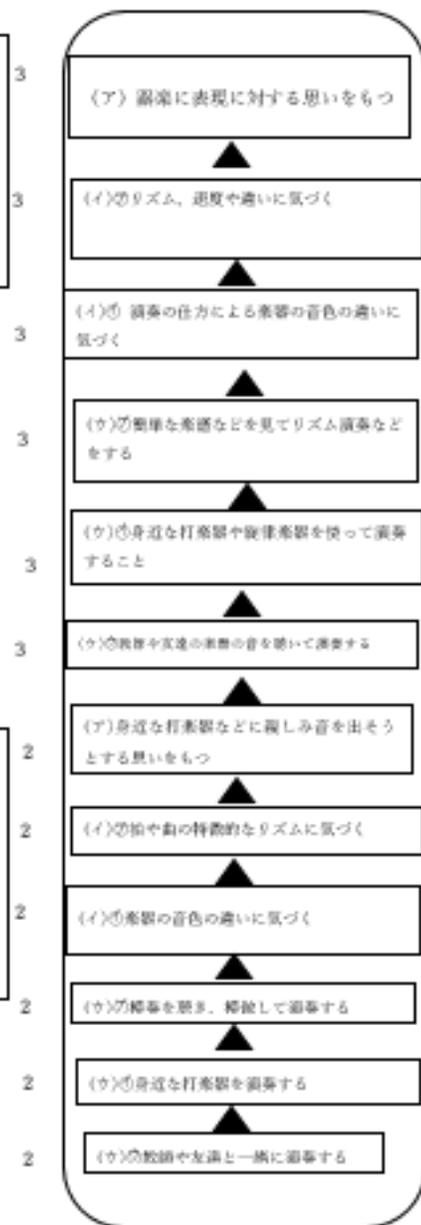
ウ ◎ 音楽を感じて声を出す。

音楽

A. 表現、器楽（小2、3段階）

3段階のねらい
身近な打楽器や旋
律楽器を中心とし
て簡単な楽譜など
をみて、リズム演奏
や初歩的な合奏を
すること

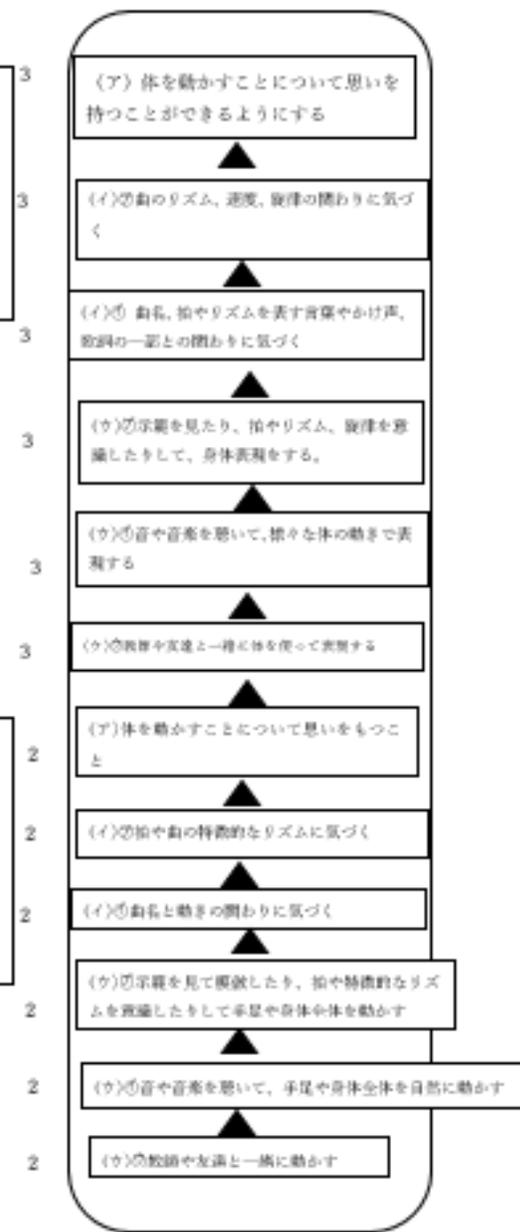
2段階のねらい
身近な打楽器をち
ょうしんとして、教
師や友達演奏を
みながらまねたり、
友達と一緒に音を
出してひょうげん
したりすること



A. 表現、身体表現（小2、3段階）

3段階
リズムを聴き取る
力に加えて、旋律や
歌詞の一部を聴い
て、表現しようとし
る力を育てていく
こと

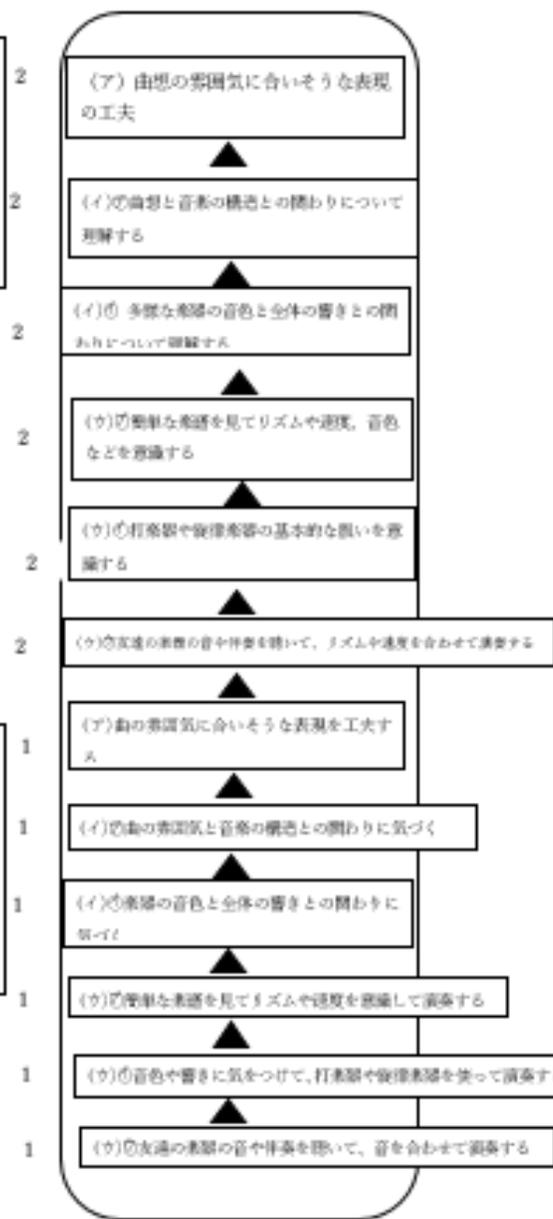
2段階
リズムの動きや生
み出す面白さを感じ
取りながら、示範
を見てまねしてみ
ることや、教師や友
達と一緒に身体表
現する



音 楽

A. 表現、翻奏 (中1、2段階)

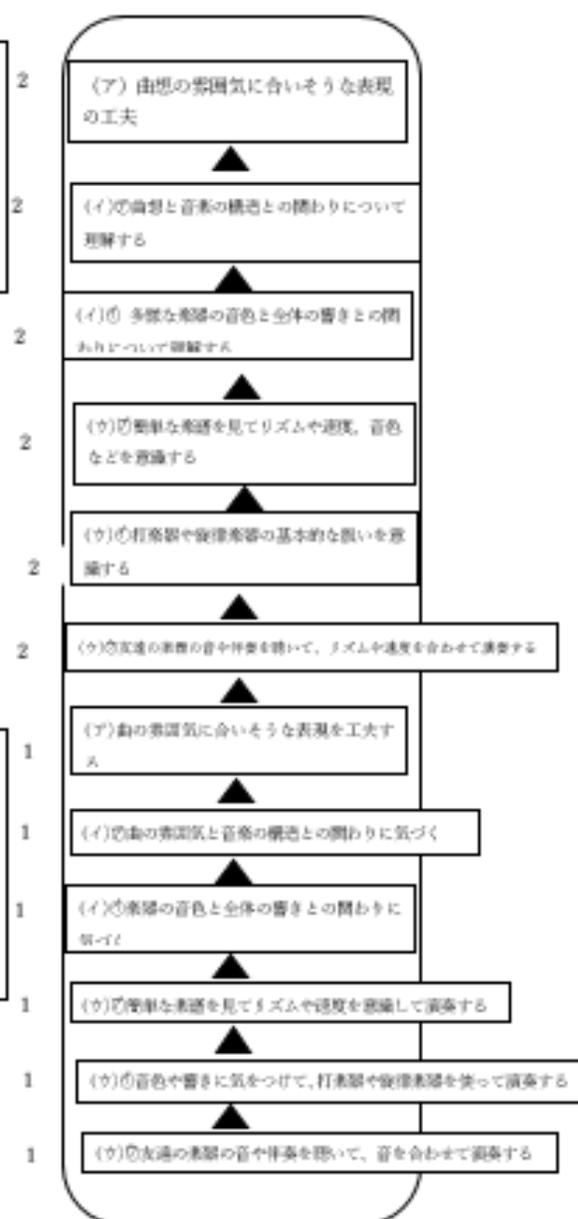
2段階のねらい
打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、友達や楽器の音も聴きながら一緒に合わせて演奏すること



1段階のねらい
打楽器や旋律楽器を使って、簡単な楽譜などを見て、友達と一緒に音を合わせて演奏すること

A. 表現、翻奏 (中1、2段階)

2段階のねらい
打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、友達や楽器の音も聴きながら一緒に合わせて演奏すること



1段階のねらい
打楽器や旋律楽器を使って、簡単な楽譜などを見て、友達と一緒に音を合わせて演奏すること

音楽

B. 鑑賞（1段階、2段階、3段階）

3段階のねらい
音楽を聴いたり演奏しているところを見たりする中で、その特徴に気付いたり、楽しさを味わったりすること

3

(ア) 楽しさを見いだしして聴くこと

2段階のねらい
音楽を聴いたり演奏しているところを見たりする中で、感じたことを体で表現すること

2

(ア) 体の動きで表しながら聴く

1段階のねらい
音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見つける資質・能力を育てていく

1

(イ) 音や音楽に気付くこと

(イ) 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気づく

(イ) 好きな音色や楽器の音を見つけること

(ア) 自分なりに楽しさを見つけようとする

B. 鑑賞（1段階、2段階）

2段階のねらい
曲や演奏のよさなど見だし、曲全体を味わってきくこと

2

ア (ア) 曲全体を味わって聴く

1段階のねらい
音楽を形づくっている要素と曲の特徴とを関連付けて聴くこと

1

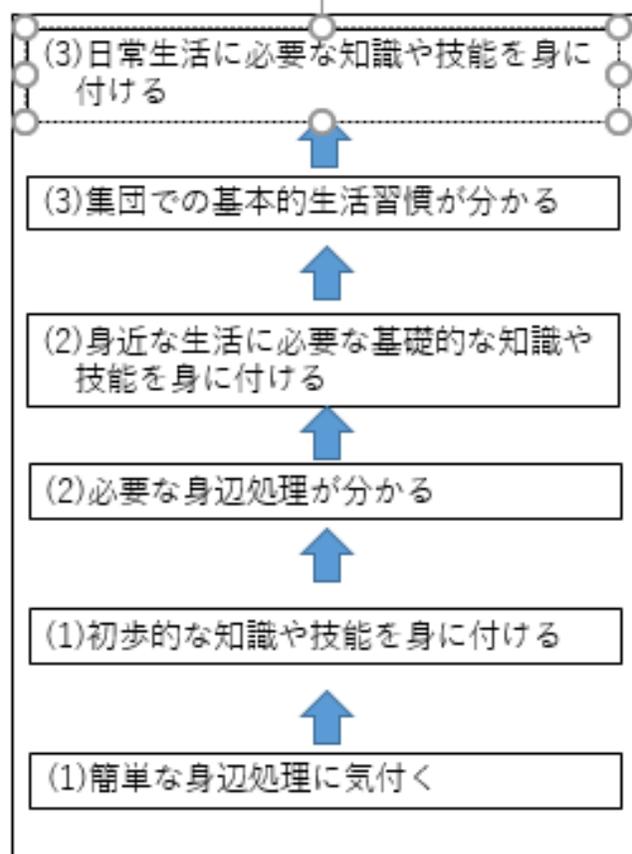
イ (イ) 曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについてわかること

ア (イ) 曲想と音楽の構造等の関わりについて理解する

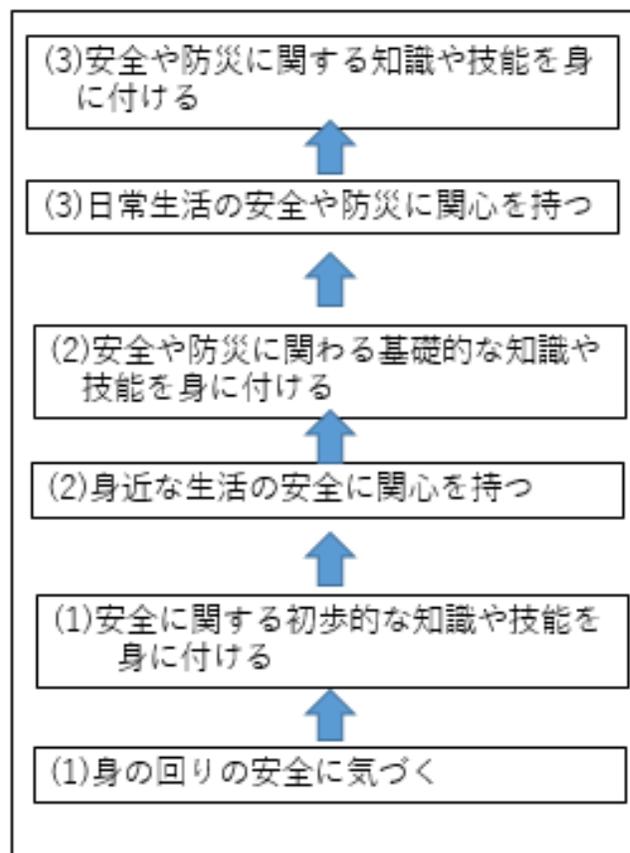
ア (ア) 曲や演奏の良さなどを見いだしして聴くこと

「生活科」の学習内容に着目した発展・関連

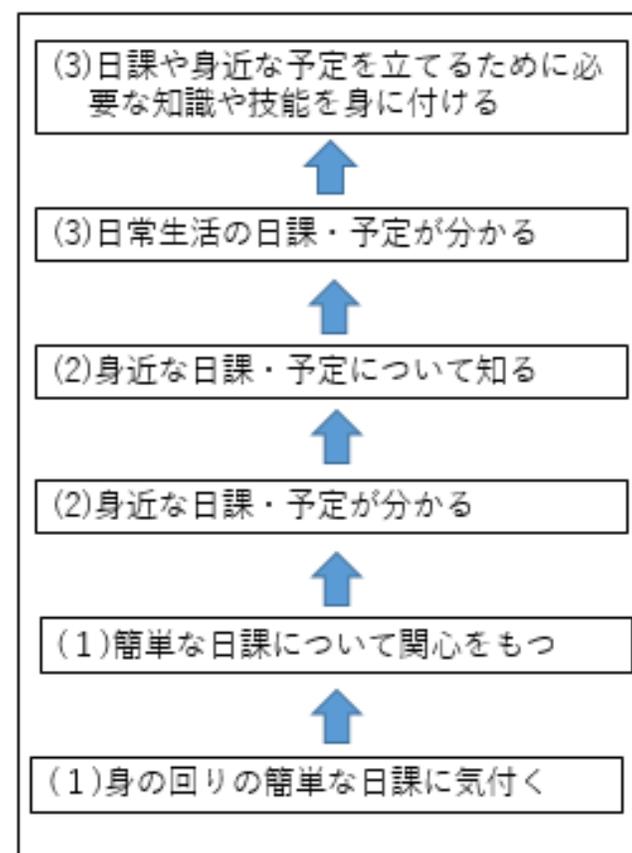
ア. 基本的な生活習慣



イ. 安全

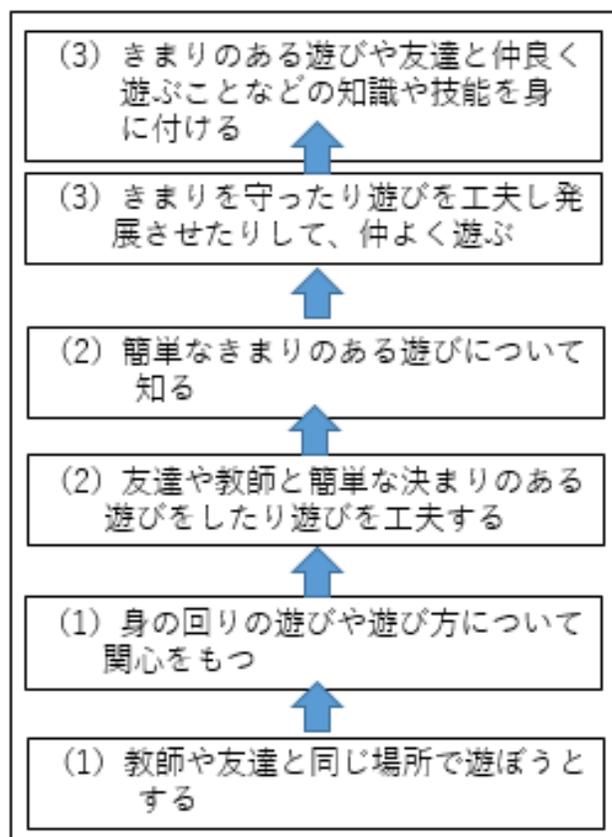


ウ. 日課・予定

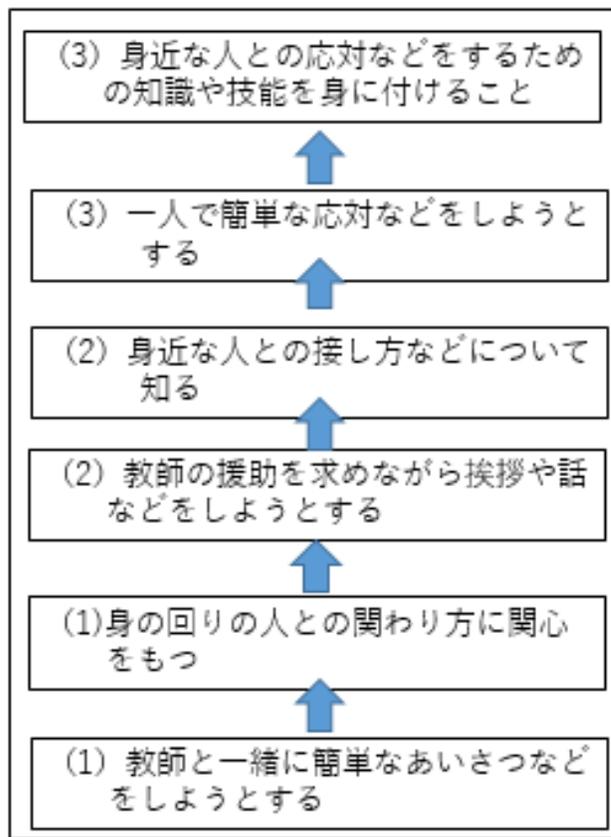


「生活科」の学習内容に着目した発展・関連

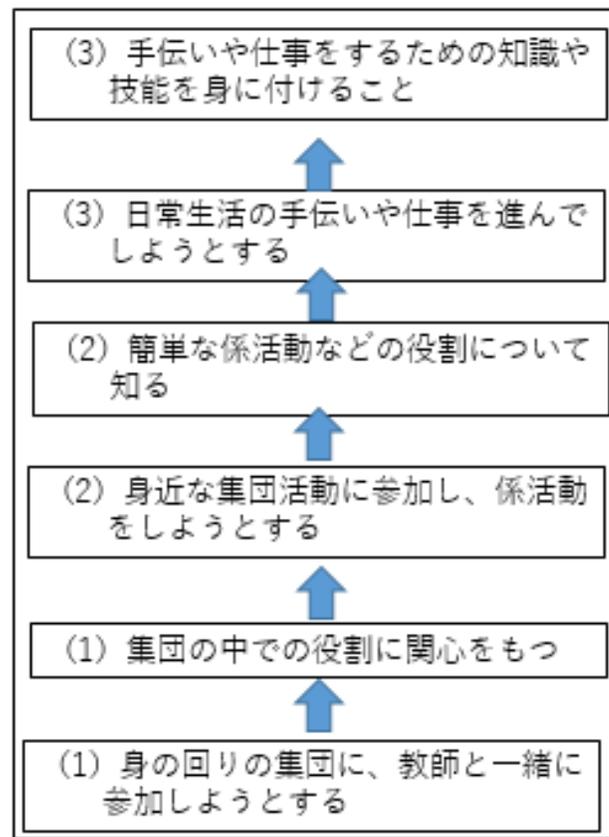
エ. 遊び



オ. 人との関わり

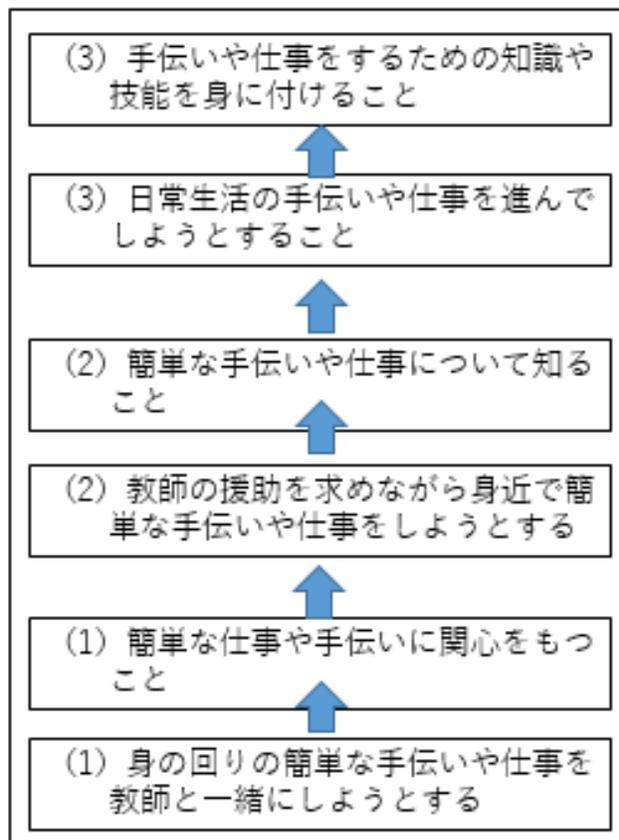


カ. 役割

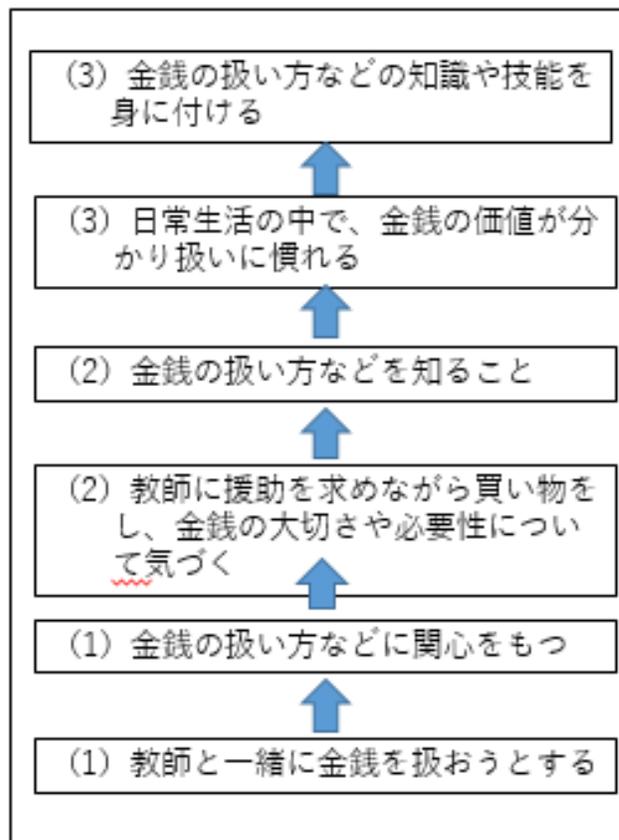


「生活科」の学習内容に着目した発展・関連

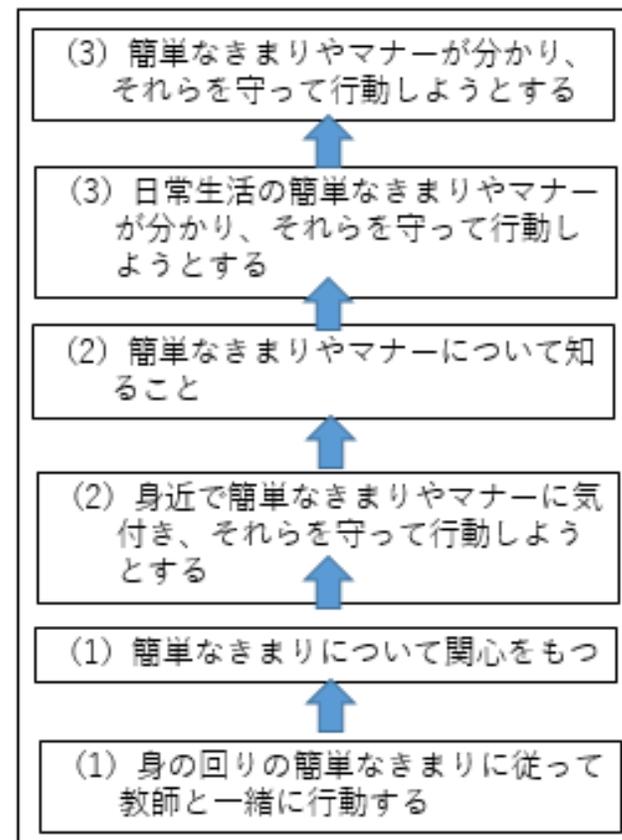
キ. 手伝い・仕事



ク. 金銭の扱い



ケ. きまり



② 【自立活動における学習評価】

ここが
ポイント

自活教諭との連携

自立活動実態表の作成

課題関連図

生活年齢、発達年齢

活動分析表の作成

記録の累積

授業・指導実践

自活教諭との連携

学習評価

複数で評価

自活教諭との連携

次年度の目標設定

変容を記載

研究グループ

目 標



小 1

自らの要求をサインで要求する。

小 4

教師の働きかけに反応することができるようにする。

中 1

注意の集中・持続しやすい環境を整えることで、視線を向けて物を選択することができる。

高 1

生活年齢、発達段階を踏まえた目標の設定と複数での評価にて妥当性を高める。

訪 問

しっかりと覚醒して学習を行う。



小 1

サインを自発させるための取り組み。①ままごと遊びを通しての象徴機能の促進。②本児が要求しそうなサインの指導（本、コップ、スプーンなど）。③学校生活全般でターゲット語彙を中心にしたサインの活用。④関わる教員同士での使用するサインの共通認識。及び自発したサインの記録の累積。

小 4

児童が注目したり触ったりしたくなるような取り組み。

- ①児童が好きなものを見つけて授業に取り入れる。
- ②児童と提示する物の距離や動かす速さ、言葉掛けやBGMの活用。

中 1

- ・生徒に具体物を注視させる。注視しやすいように視覚刺激や聴覚刺激の少ない環境を整えて学習に取り組む。
- ・注視した後、2種類の具体物を提示して机の上に寄せ、同じ物を指さしさせる。
- ・赤、青の2色を見比べ、同じ色の物を入れたりすることができる。
- ・提示された物と同じ形の物を選ぶことができる。
- ・学習の様子をビデオ撮影し、後日複数の指導者で評価をする。

高 1

- ①相手の顔を見てあいさつできる。4月からの変容…△ ・関わり方で本人の発信が変わってくるのがわかった。
- ②車いすから工房いすへ、またその反対の立位乗動作を少ない介助でできる。4月からの変容…○ ・トイレでの移乗中心だったが、様々な場面で意識して取り組むことができた。 ・日によって違いはあったが、立ち上がりが良くなった。
- ③相手の顔を見て依頼することができる。4月からの変容…△ ・目が合うと物を渡そうとしたり、促しで言葉で伝えられることができるようになってきた。

訪 問

- ①「身体の大きさ」⇒ 気軽に移乗や体位変換することが難しい。対策として、スライディングボードを活用した水平移動での介助や介助者の支援方法の工夫。
- ②しっかりと覚醒させるための取り組み。 ・エアマットを用いた全身の揺れ。 ・端座位～抗重力姿勢
- ③行動分析表の活用：座位保持具よりも教師が支える方が覚醒が維持しやすい。



小 1

- ・サイン模倣が増えた（細かい動きを模倣しようとする様子も見られる）
- ・サインとともに発声する頻度が増えた。
- ・本児について話をする機会が増えた。

小 4

- ・見る力が向上
- ・児童と関わる際の教員間の共通理解
- ・複数の教員が関わることで、評価の客観性・妥当性が向上

中 1

- ・環境を整えることで集中力を高めることができた。学習の見通しを持たせることで、集中力を持続させることができた。
- ・「きちんと見てできた」ことを賞賛することで見ることへの意識を高めることができた。
- ・少しずつ集中して取り組める時間を長くしていくことが効果的だった。

高 1

- ・課題を分析することで、指導方法や関わり方を指導者（寄宿舍含む）で統一することができた。
- ・後期の目標や授業内容に反映ができた。
- ・関わりが統一されたことで、本人が理解して取り組んだり、依頼できたりするようになってきた。
- ・課題分析表については、生徒によっては有効だと考える。年度当初からの変容がわかりやすく、様々な人がつけることで、色々な視点で評価できる。

訪 問

- ・全身の揺れ及び端座位を行い、覚醒を高めることができた。眠気が強い際にも、エアマットに乗せた瞬間から良い表情になることが多く、引き続き端座位を行うことで、ベッドに戻った後も覚醒を維持することができることが多かった。
- ・覚醒が高まることにより、笑顔や口の動きなどの気持ちの表出を多く引き出すことができた。

小 1

- ・ 模倣できるサインを自発につなげる・言語理解を広げる・やりとり関係の向上を図る。
- ・ 象徴遊びの経験を積み、楽しめるようにする・自発的に要求することを増やす。
- ・ 発声を伴うサイン等で表出すること。

小 4

- ・ 姿勢、見え方、コミュニケーションに関して専門性の高い自活教諭の助言を確認しながら行えるとよりよいものになったのでは。

中 1

- ・ 集団学習での集中力の持続。
- ・ 学習して身につけたことを、日常生活の場面で活用できる場面設定。

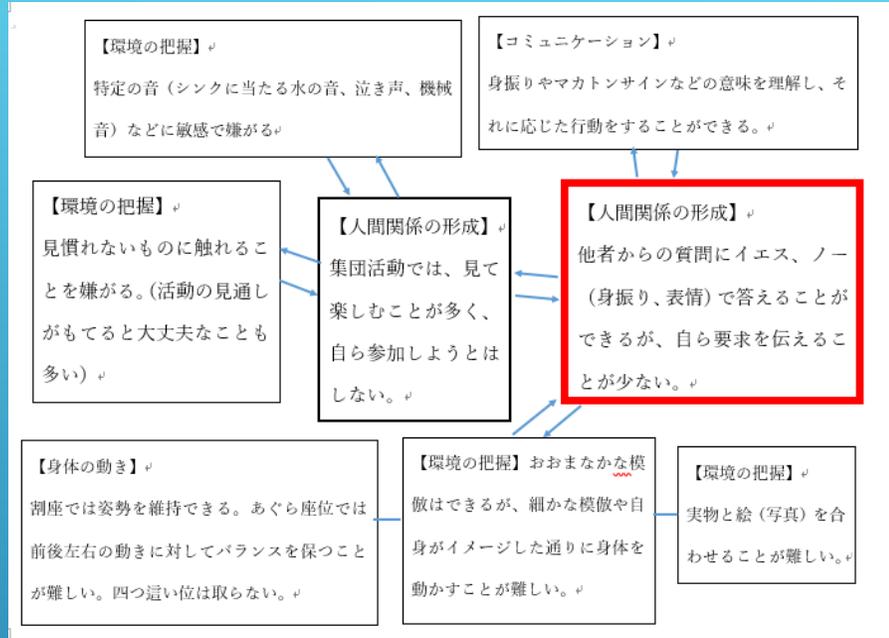
高 1

- ・ 本人の実態から、その日の体調、気持ちの状態のできる日とできない日があったため、分析表をつけても積み上がっていかなかった。課題分析表の様式についても検討すべきだった。
- ・ 課題分析表のチェック方法や負担感について。

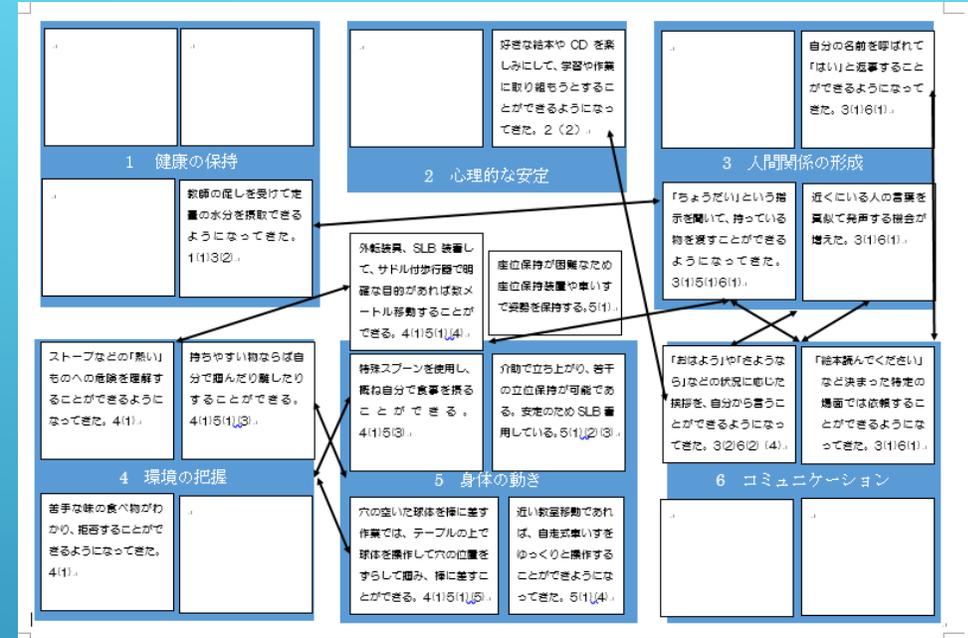
訪 問

- ・ 卒業後（在宅を予定）のメリハリのある生活。
- ・ 訪問教育で行ってきた内容について継続可能な内容を事業所に保護者を通して相談する（生活の充実や機能回復に関わること）。

【課題関連図】

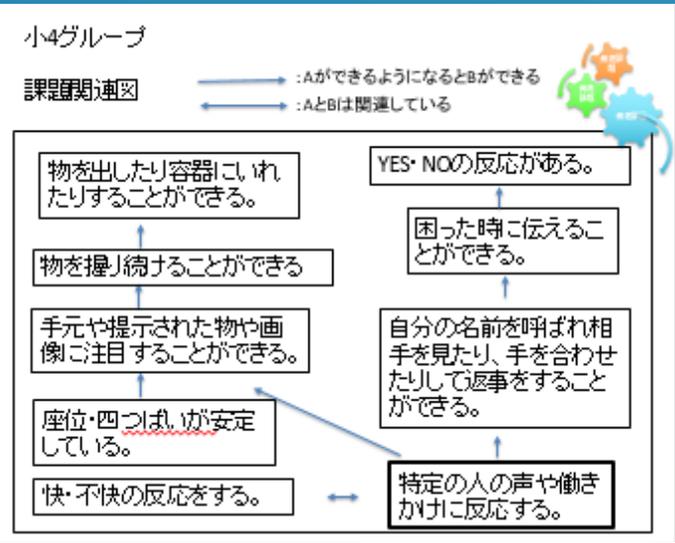


【小1】

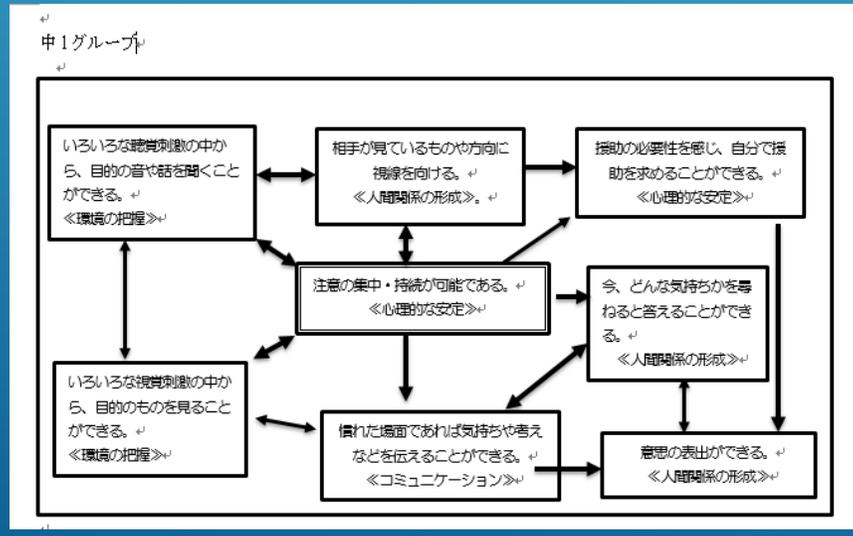


【高1】

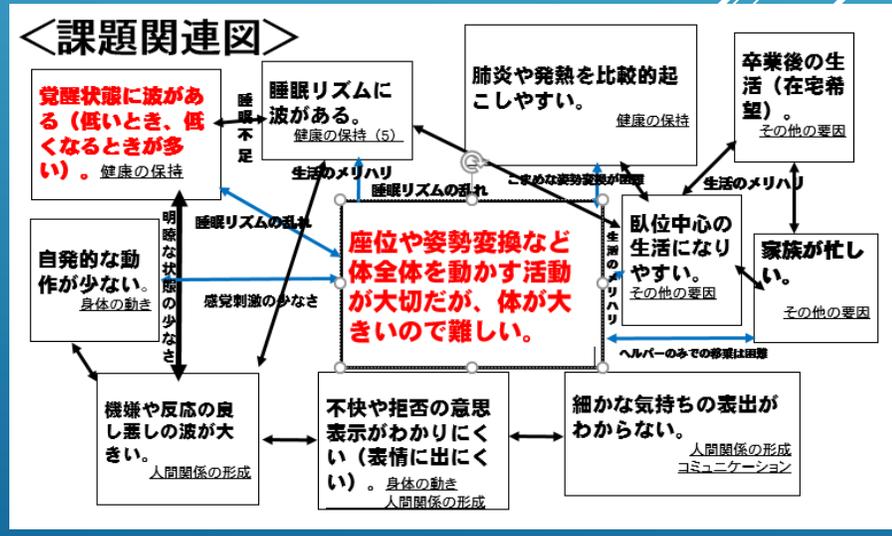
【小4】



【中1】



【訪問】



【活動分析表】

【小1グループ】

※小1 サインの記録

サイン	11月6日(水)	7日(木)	8日(金)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)
イス			○△					
座る			☆				□☆	
おいしい	□		○			☆		
ちょうだい				☆				
食べる			○		パンサイン		☆	
車いす	□				☆		□☆	
飲む		□○			☆		□○	
本	○手を合わせる							
コップ	□		○					
スプーン			△	○△	☆			
フォーク			△					
家	○グーで上げる		○	○△				
車			□○△					
バス			○△	○△				
行く	☆		☆				☆	
ここ、そこ								
あっち								
トイレ	○		○	☆		☆		
おはよう	○両手グー	○少し人差し指を意識している						○
はじめ	○		☆					
おわり	○		☆	○	○			
その他	お願い☆、「お願いって言うんだよ」返事ー左手のみ上げる	ひざ△○	寝る○、洗う○、牛乳△、アイス○、ハサミ、一教師の手の動きに合わせて手をにまざる、園工○グーを合わせる、プレーキ後の終わり？できた？サイン○	花○△、トイレ☆、プレーキ後終わりサイン○？、始めます○☆、終わりサイン○	おりたい、一手差し、プレーキ後終わりサイン○		トイレ○、一発声、表情で訴え、「何？」と問いかけると手差し後にトイレサイン？、おはよう○、一指を動かして真似ようとする	

◎：自発(言葉聞いて表出する場合も含む) ○：模倣 △：一緒に ☆：言語理解 □：見るのみ

サイン	18日(月)	19日(火)	21日(木)	22日(金)	25日(月)	26日(火)	27日(水)	28日(木)	
イス				□☆	△ / □	□☆	☆	☆	
座る	☆	□	☆						
おいしい	○	○		○	○	☆	☆	☆	
ちょうだい					☆		☆	☆	
食べる	○			○△		☆	☆	☆	
車いす	□☆	□	□	□	□☆	□☆	☆(手差し)	□	
飲む	○	☆		☆				□	
本	○			○	☆ / ○		○手を開くようになってきた		
コップ	○								
スプーン			○		◎				
フォーク	□				△		◎		
家					◎				
車					○△				
バス					○	○		○	
行く	☆				☆		☆	☆	
ここ、そこ									
あっち					☆				
トイレ	○	◎	◎自ら	○		○	◎自ら	○	
おはよう	○指を意識しながらグー								
はじめ									
おわり								◎	
その他	本、今までは手を合わせて終わっていたが、手を合わせた後に手の甲を下にしてグーで表していた	「トイレ行く？」「トイレは？」、一◎、生単吉田 T の動き一○	トイレ(からだの時間)一◎、ピン(生単吉田 T の真似)○、牛乳○、園厚○	トイレ○	トイレ☆○、トイレ(からだ後)一◎、「いただきます」、一食べる☆△、バス、一△○、※少し上下に動かす様子があった				ひざ(歌)◎、バイバイ◎

◎：自発(言葉聞いて表出する場合も含む) ○：模倣 △：一緒に ☆：言語理解 □：見るのみ

サイン	29日(金)	12月2日(月)	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)
イス						
座る	□△			☆	☆	
おいしい		◎お茶を飲んだ後		◎		
ちょうだい	☆□			☆		
食べる	◎			◎写真を見て手を口に運ぶ		
車いす	□△			☆	□△	
飲む	☆○	○		◎	☆	
本						
コップ						
スプーン				◎○		
フォーク				○		
家						
車					○	
バス						
行く	☆					
ここ、そこ						
あっち						
トイレ	◎			◎		△ ◎
おはよう	○					
はじめ	◎					◎
おわり	◎					◎
その他	バイバイ◎	ほっぺ(歌)○				園工○△

※T.Hさん 国算記録

	11月18日	25日	27日	12月2日	4日
選択する(マッチング)	×	△(2枚正答)	△(2枚正答)	△(3枚正答)	△(3枚正答)
模倣する					
①家	△	△	○	○	△
②バス	×	×	△	△	△
③スプーン	○	○	○	○	○
④コップ	○	○	○	○	○
⑤花	△	△	○	○	○
自発する					
①家	×	×	△	×	△
②バス	×	×	×	×	×
③スプーン	△	△	○	○	○
④コップ	△	△	○	△	△
⑤花	△	△	△		○
その他	マッチングでは左右に並んだカードを両手で取ってしまった。	マッチングではカードを上下に置くと正しい方を模倣することができた。	マッチングではカードを上下に置き、正答を奥に置いて模倣することができた。	【コップ】は「ごくごく」と擬音語を加えることで自発することができた。	

○できた △一緒に ×難しかった

【小4グループ】

小4 活動分析表

年間目標・・・教師の働きかけを受けて、その意図に応じて動くことができる。

指導目標・・・

1. パペットやペーパースーツなどに注目し、登場人物の動きに合わせて追視する。
2. 自分の名前を呼んだ教師の方向へ顔を向ける。
3. 教師と触れ合い遊びを通してやりとりに意図した動きをする。
4. 目の前に提示したものに自分から手を伸ばし触れる。

指導内容・・・

(手立て)

1. 様々な方向から提示し、追視する力を高める。提示する距離を少しずつ離していく。
2. 注目できるように伝える。反応が少しでもあったときには賞賛し、出来たことが実感できるようにする。
3. ギャコンパターンなどのやり取り遊びを通して見通しを持って動きに応じることができるようにする。
4. 様々な素材を目の前に提示し、好きなものや嫌いなものを探る。簡単な遊びや制作活動をする。

活動内容	10/14	10/15	10/23	10/29	10/30
声かけや音を手がかりに、目の前に提示された事物に注目する。	○	○	○	○	○
声かけや音を手がかりに、目の前に提示された事物の動きを目で追う。	○	○	○	○	○
声かけを手がかりに目の前に提示された事物に注目する。	△	○	○	○	○
目の前に提示された事物の動きを左右 30cmほど目で追う。	△	△	○	○	○
目の前に提示された事物の動きを 1mほど目で追う。	△	△	△	○(光)	○(光)

○できた、△条件付き達成、×できなかった。

上記以外の方法(手立て)で達成できた。など。
詳細は記述欄へ記載。一指導の改善につなげる。

【中1グループ】

自立活動 活動分析表

年間目標・・・様々な場面でもタブレット機や写真カード、絵カードを用いて、選択しながら学習に取り組むことができる。

指導目標・・・提示された物をよく見て、同じ物を指さしすることができる(二者択一)。

指導内容・・・生徒に具体物を注視させる。注視しやすいように視覚刺激や聴覚刺激の少ない環境を整えて学習に取り組む。

(手立て)・・・注視した後、2種類の具体物を提示して机上に寄せ、同じ物を指さしさせる。

活動内容	8/26(月)	8/29(木)	9/2(月)
①提示された物と同じ色の物を選ぶことができる。	×	未実施	未実施
②赤、青の2色を見比べ、同じ色の物を入れたりすることができる。	△	△	△
③複数の色の入れ物にボールを入れることができる。	×	△	未実施
④赤、青、黄、緑に色分けされた異なる形の型はめをすることができる。	○	○	未実施
⑤提示された物と同じ形の物を選ぶことができる。	△	△	△
⑥文字を見て、同じ文字カードを選ぶことができる。	未実施	未実施	未実施

○できた、△条件付き達成、×できなかった

記述欄

8/26(月)	8/29(木)	9/2(月)
①「〇色はどっち？」などと言葉かけしながら、2色の折り紙やブロックを選ぶ学習を行ったが、正解のことが多かった。	②入れる物一つずつ渡すことで、正解する確率が上がったが、教材で遊んでしまうことがあったので、工夫が必要。	③2色マッチングでは、様々なパターンの教材に興味を持って取り組んでいた。
②集中している時は正解することがあったが、教材で遊んでしまう傾向があった。	④2色の色から一つずつ色を選ばせていきながら活動を行うと同じ色の箱にボールを入れることができることもあった。	☆カラーゴンは手元を見て、数秒的に取り組んでいた。正解率が上がった。
③一度に複数の色を見比べて操作をすることは難しかった。	④4色の型はめは、集中して一人で取り組むことができた。	☆筒や輪を選ぶので、初めての教材だったので、教師と一緒に取り組んだ。
④カードと同じ果物の具体物を選ぶ活動では、理解することもあったが、理解して遊んでいるとは言い難い。	⑤前回と同様。しっかりと分かったことが分かる教材なので、本人にとって分かりやすいのではないかと感じた。	☆プットイン色の区別はついてきているようであるが、同じ穴のところに落ちることが難しかった。
	⑥前回と同様。	⑤前回と同様。集中している時は、正解することが多かった。

【訪問グループ】

＜活動分析表＞

全身の揺れ

○ 覚醒高 △ 身体接触で支援 × 覚醒低

内容	日時	8月22日(木)	11月14日(木)
① エアマットへの移乗	○ 目を開ける、口の動き	○ 目を開ける、口の動き	○ 笑う
② 音楽をかける	○ 表情変化、笑顔	○ 表情変化、笑顔	○ 笑う、目の動き
③ 全身を揺らす	○ 口の動き	○ 口の動き	○ 笑う、口の動き
④ 揺れを止める	○ 口の動き止める	○ 口の動き止める	○ 口の動き止める

移動前は覚醒低い
移動前から覚醒している
エアマットに移乗する際に目を開ける。
そのまま覚醒を維持したり、さらに気持ちを高揚させる。

＜活動分析表＞

端座位(教師の支え) ○ 覚醒高 △ 身体接触で支援 × 覚醒低

内容	日時	9月10日(火)	10月31日(木)
① 座位への姿勢変換	○ 目を開けている。	○ 目を開けている。	○ 目を開けている。
② 座位保持(20分間)	○ 音楽をかける笑顔口を開けている。	○ 音楽をかける笑顔口を開けている。	○ 何度か体に力が入る

端座位(座ろう君) ○ 覚醒高 △ 身体接触で支援 × 覚醒低

内容	日時	7月9日(火)	8月22日(木)
① 座位への姿勢変換	○ 目を開けている。	○ 目を開けている。	○ 目を開けている。
② 座位保持(20分間)	△ 暖気有り。肩を揺さぶると起きる。	△ 暖気有り。肩を揺さぶると起きる。	× 座ろう君の揺らぎまでは起きていない。揺らし声を聞いて笑顔。座ろう君の揺らぎに慣れる。

覚醒低くなる

【高1グループ】

自立活動 活動分析表

年間目標	・・・ 高等部での生活に徐々に慣れ、自分の要求や気持ち、依頼を言葉で伝えながら、安定した気持ちで学習に取り組むことができる。				
指導目標	・・・ 相手の顔を見てあいさつできる。				
指導内容	・・・ 自分からあいさつできるよう、目が合った後に待つ、動作で促すなど手順を意識する。				
活動内容	8/26	8/27	8/29	9/2	10/4
相手の顔を見る。	○	○	○	○	○
〈促し〉動作であいさつをする。	○	○	○	○	○
〈促し〉言葉であいさつをする。	○	○	○	○	○
〈自分から〉動作であいさつをする。	○	○	×	×	×
〈自分から〉言葉であいさつをする。	○	○	×	×	×

○できた、△条件付き達成、×できなかった

上記以外の方法（手立て）で達成できた。など。
詳細は記述欄へ記載。→指導の改善につなげる。

記述欄

8/26	8/27	8/29	9/2	10/4
目が合うと自分から「おはよ」と小さい声で言えた。	こちらから話しかける前から目が合っていた。目の前で名前を呼ぶと自分から「おはよう」と挨拶してきた。	前週と同じように目を合わせて名前を呼び、待つが自分からは挨拶はなくこちらの「おは」の途中で「よう」と言う。	目を合わせて少し待つ。目を見て名前を呼んで少し待つ。挨拶がないのでこちらから「おはよう」と言うと、目を見てすぐ「おはよう」と言ってきた。	目が合った後、「おはよう」と言うと、「おはようございます」とは違う言葉を発する。周りの教師に促され、3、4回目に「おはようございます」と言えた。

自立活動 活動分析表

年間目標	・・・ 高等部での生活に徐々に慣れ、自分の要求や気持ち、依頼を言葉で伝えながら、安定した気持ちで学習に取り組むことができる。				
指導目標	・・・ 相手の顔を見てあいさつできる。				
指導内容	・・・ 自分からあいさつできるよう、目が合った後に待つ、動作で促すなど手順を意識する。				
活動内容	8/26	8/27	8/29	9/2	10/4
相手の顔を見る。	○	○	○	○	○
〈促し〉動作であいさつをする。	○	○	○	○	○
〈促し〉言葉であいさつをする。	○	○	○	○	○
〈自分から〉動作であいさつをする。	○	○	×	×	×
〈自分から〉言葉であいさつをする。	○	○	×	×	×

○できた、△条件付き達成、×できなかった

上記以外の方法（手立て）で達成できた。など。
詳細は記述欄へ記載。→指導の改善につなげる。

記述欄

8/26	8/27	8/29	9/2	10/4
目が合うと自分から「おはよ」と小さい声で言えた。	こちらから話しかける前から目が合っていた。目の前で名前を呼ぶと自分から「おはよう」と挨拶してきた。	前週と同じように目を合わせて名前を呼び、待つが自分からは挨拶はなくこちらの「おは」の途中で「よう」と言う。	目を合わせて少し待つ。目を見て名前を呼んで少し待つ。挨拶がないのでこちらから「おはよう」と言うと、目を見てすぐ「おはよう」と言ってきた。	目が合った後、「おはよう」と言うと、「おはようございます」とは違う言葉を発する。周りの教師に促され、3、4回目に「おはようございます」と言えた。

自立活動 活動分析表

年間目標	・・・ 日常での生活の中で協力動作を行おうとする場面を増やすことができる。				
指導目標	・・・ 車いすから工房いすへ、またその反対の立位移乗動作を少ない介助でできる。				
指導内容	・・・ 座った姿勢から、介助者の首に腕を回し、膝を伸ばす動きや、立位姿勢に移る動きを意識しながら繰り返し取り組む。				
活動内容	8/21	8/22	8/23	8/26	8/27
フットレストから足を上げる、浮かす。	○	○	○	○	○
前傾姿勢で、おしりを前へ動かす。	○	○	○	○	○
介助者へ手を伸ばす。	○	○	○	○	○
お尻をあげる。	○	×	○	×	○
立ち上がる（足でふみしめる）。	×	×	○	×	△

○できた、△条件付き達成、×できなかった

上記以外の方法（手立て）で達成できた。など。
詳細は記述欄へ記載。→指導の改善につなげる。

記述欄

8/21	8/22	8/23	8/26	8/27
膝が伸びなかった。	昨日はできていたが、自分から立とうとしなかった。	足を踏みしめて立つことができた。1日スムーズに立位をとることができた。	眠気からか、自分から立とうとしなかった。	立ち上がりでは、骨盤が立つように支援することで踏みしめられた。

【自立活動グループ 今年度のまとめ】

自立活動実態表の作成

自立活動実態表を作成することで手順が見える。

活動分析表の作成

児童生徒の実態に応じて工夫する必要がある。

授業・指導実践

記録の累積を行うことで、複数の目により評価ができる。

学習評価

次年度の目標設定

令和2年度は、全校で自立活動実態表を作成し、自活教諭との連携のもと進める。

高等部 合わせた指導グループ

高等部の取り組み

▶ 現在、合わせた指導を主とした教育課程



① 合わせた指導（生活単元学習および課題学習）の内容を確認

② 各教科等との関連を確認

③ 次年度の年間指導計画に反映



指導内容や評価観点が明確になり、

個別の指導計画の目標設定・評価へとつながることを目指して・・・

①生活単元学習および課題学習の内容確認

- ・各教科等との関連を明記した単元計画

⇒各学年・各グループの指導担当者が作成（高2・高3）

②各教科等との関連を確認

- ・生活単元学習と各教科等との関連
- ・課題学習と各教科等との関連

生活単元学習と各教科等との関連について

▶ 指導されている教科に偏りがある（高2）

少ない : 算数・数学、理科、外国語

課題学習と各教科等との関連について

- グループによって指導内容が大きく異なるため、同じ学年でも、指導されている教科等の偏り方は異なる
- 高2・高3ともに、社会、理科が少ない傾向があり、どのグループにおいても、理科は極めて少ない

まとめ

- ▶ 高等部の合わせた指導において、指導内容に含まれていない、または少ない教科が明確になった
- ▶ 課題学習のグループによる指導内容の偏りや違いが、明確になった



- ▶ 次年度は、教科学習を主とした教育課程となるため、指導する教科の偏りは解消
- ▶ 課題学習は無くなるが、生活単元学習（進級単元、行事単元、食育など）については引き続き、関連する教科等を明確にして取り組む

寄宿舎グループ

テーマ：「舎生の実態把握から見る課題と指導の共通理解」

(1) 食事時間の活用

- ・ 段階を踏んだ指導
- ・ 課題の可視化
- ・ 記録

(2) 「日常記録」の記入と活用

- ・ 記入の仕方の統一
- ・ 「個別の指導計画—実態」 「配慮事項の見直し」